



New Partnership

第76号 2023年 10月 18日 安足教育事務所 ふれあい学習課
TEL.0283-23-1471 FAX.0283-23-4274 mail: ansoku-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp



安足地区ふれあい学習推進会議

今年度テーマ「みんなでつながろう 笑顔広がる新時代の地域づくり」

安足地区でのふれあい学習を推進するために、今年度9名の方に「ふれあい学習推進委員」を委嘱させていただき、安足地区で抱えている課題や、これからの方向性について話し合っています。委員の方々から安足地区におけるふれあい学習の推進状況や現状などについて意見をうかがいました。熱心な協議をありがとうございます。

【ふれあい学習推進委員】

田所 忠義 氏	佐野市小中義務教育学校 PTA 連絡協議会 理事	館野 進一 氏	足利市富田地区育成会連絡協議会 会長
堀川 悦郎 氏	佐野市家庭教育支援チーム 会員	高畑 真朱美 氏	足利市山前地区育成会連絡協議会 会長
黒澤 明暢 氏	佐野市立あそ野学園義務教育学校 教諭	國府田 和幸 氏	足利市立北郷小学校 教諭
福地 俊明 氏	県立足利中央特別支援学校 教諭	生形 和彦 氏	佐野市生涯学習課 社会教育係長
熊倉 善博 氏	足利市生涯学習課 社会教育主事		

《委員の皆さんからいただいた意見のまとめ》

- ・地域と学校がお互いを支え合い、地域の方と子どもたちがつながりをもてるような活動を推進していきたい。
- ・子どもたちがいろいろな団体とつながり、win-winな関係を築けるようお手伝いしたい。
- ・昔と比較すると、世の中の状況は大きく異なってきているので、事例をもとに時代の変化にあわせたつながりづくりを紹介し、つながることでのどのようなよい効果が現れるか等も紹介したい。



安足地区さわやか人権フォーラム (安足地区人権教育指導者一般研修)

日時：5月30日(火) 13:30~16:00
会場：佐野市葛生あくとプラザ大ホール
参加者：148名

内容：講演会「ハンセン病問題から学ぶこと」
講師：国立ハンセン病資料館 事業部事業課長 大高 俊一郎 氏
ハンセン病問題は現在進行中の人権問題です。二度と同じ過ちを繰り返さないために私たちに何ができるかを考える機会になりました。

【参加者からの感想】

- ハンセン病の差別について時間の経過とともに忘れられることのないように様々な場面で取り上げていく必要があると感じた。
- 大変勉強になった。今後の生活に生かしていきたい。また、差別解消のため教育の果たすべき役割は大きいと感じた。



安足地区PTA指導者研修Ⅰ

日時：7月27日(木) 13:15~16:30

会場：佐野市文化会館 大ホール

参加者：165名

内容：ワークショップ「笑顔のコーチング
～子どもたちのために私たちができること～」

講師：NPO法人ハロードリーム実行委員会 理事 内田 圭介 氏
笑顔の大切さを分かりやすく親しみのある話し方で教えていただき、会場中が笑顔に包まれるワークショップになり、参加者同士のつながりづくりになりました。

【参加者からの感想】

- 改めて、人と人とのコミュニケーションの大切さを学んだ。
- 笑顔のコーチングの3つの基本スキルを意識しながら、今後の生活に活用していきたいと思った。



とちぎ子どもの未来創造大学出前講座

栃木の子どもの学力向上の基礎づくりのために、学校における学習に加えて、学ぶ意欲を高め主体的に学習に取り組む態度を涵養する必要があることから、県内の高等教育機関、民間企業等と連携しながら、子どもたちに「本物」に触れる学習機会を提供しています。管内の公民館等で開催されました。



8月18日(金) 「化石教室」
講師：栃木県立博物館職員
場所：足利市生涯学習センター



8月21日(月) 「黒曜石の矢じりを作ろう」
講師：とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター職員
場所：佐野市中央公民館



8月25日(金) 「手作りカメラを作ろう」
講師：帝京大学宇都宮キャンパス職員
場所：足利市生涯学習センター



日付	時間	事業名	場所	内容
10/20 (金)	14:00~ 16:30	第1回ふれあい学習研修会 (社会教育主事有資格者ステップアップ研修I)	安蘇庁舎 大会議室	講話「地域とともにある学校づくりに向けて」 講師：とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬 隆人 氏
10/25(水) ~10/27(金)	2泊3日	不登校児童生徒支援事業 ふれあいキャンプ	太平少年 自然の家	青少年教育施設の機能を活用した体験活動、自然活動、 集団宿泊活動をととした生活体験活動、教育相談(保護者)
11/8 (水)	14:00~ 16:30	安足地区家庭教育・子育て支援担当者研修 兼 家庭教育支援プログラム指導者フォローアップ研修	安蘇庁舎 大会議室	講話「子どもたちに届けたい性の話」 講師：社会福祉士/性教育アドバイザー 思春期保健相談士 たてめま はるか 氏
11/17 (金)	14:00~ 16:30	第2回ふれあい学習研修会 (地域連携教員・有資格者研修 兼 社会教育関係職員研修 ③ 兼 地域コーディネーター養成研修④)	あしかが フラーパーク プラザ 小ホール	事例発表・協議「学校を核とした地域づくりに向けて」 発表者：佐野市立界小学校地域連携教員 鮎瀬 亮 教諭 " 地域コーディネーター 生沼 裕子 氏 足利市立毛野南小学校地域連携教員 飯田 佐枝子 教諭 " DSP(読書活動推進プロジェクト) 村山 哲也 氏 DSP(読書活動推進プロジェクト) 田沼 慎二 氏

社会教育主事講習修了者の紹介

次年度に向けた社会教育主事有資格者としての抱負



本年度の社会教育主事講習は、オンライン研修と宇都宮大学の集合研修の2部構成で夏休みの約1か月にわたり実施されました。安足地区からは9名の方が受講し、新たに社会教育主事有資格者となりました！(順不同)



中井 麻実(佐野市立伏東小学校 教諭)

学校と地域の橋渡しをしていく役割を自覚し、講習で学んだことを生かして、「地域が好き子ども」「持続可能な地域づくり」を目指していきたいです。地域の子もたちを地域社会全体で育てる意識をもち、学校と地域が連携・協働して相互が充実し、高め合える風土を作ることが目標です。そのために、学校を地域コミュニティの拠点として、人と人、人と地域をつなげる役割に力を入れていきたいです。今後どんな学びの場を作る際にも、地域の思いや願いを共有し、地域の方々に伴走しながら、一緒に学びの機会を作り、新たな人との出会いやつながりを作っていきたいです。



川辺 康平(佐野市立城北小学校 教諭)

来年度から、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が本格的に動き出すことになる。講習受講後、社会教育的視点で身の回りを見ようになってきた。今年度、この講習で学んだことを生かせる場面に携われたらいいと思う。また、学級担任という立場で考えたとき、人とつながることのよさ、仲間づくりの大切さを知り、子どもたちと伝えていきたい。「人と関わることを楽しめる児童」を育成するため、まずは、自分自身が日頃から人との関わりを楽しみたい。そういう姿勢をもってCSの活動に関わっていき、共感してくれる仲間を広げていけたらよいと感じる。



飯塚 真弘(佐野市立南中学校 教諭)

人とのつながりや地域とのつながりを増やしていくためにも、学校を核とした地域づくりの重要性をもっと多くの先生が知っていただくことが大切であると感じた。研修を終えて、様々な行事への取組に対して、地域とのつながりを視点に置いた考え方を少しずつ持てるようになってきた。今後継続して社会教育について学んでいきたいと考えている。現段階で、社会教育に関する講演に自主的に参加する予定であり、その学びを今後の教育活動に生かし、視野を広くしていきたい。また、今回の学びで地域とのつながりが重要だと感じたので、地域の活動に積極的に参加し、地域とのつながりを持ちたいと感じる。



小島 悠太(足利市立梁田小学校 教諭)

学校を核とした地域づくりを行い、地域をより活性化させたいと思い教員になったことを思い出した。現在、コロナ禍や働き方改革などの環境の変化により、学校と地域のつながりは以前よりも弱まっている。つなぐことを意識し、地域や保護者の人ともによりよい学校や地域、つながりづくりを行いたい。様々な行事や指導計画を見直し、つながりづくりを行えるように、再考していきたい。学んだ知識や技術を活用し、勤務地だけでなく、自分の地元にも還元していきたい。また、つながりの大切さを同僚や保護者、地域の方にも広めていきたい。



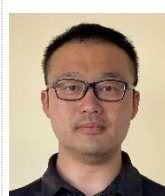
長竹 佑也(足利市立北中学校 教諭)

人間は人とのつながりの中で生きていくことが必要な生き物であり、地域とのつながりや、人間関係づくりが人の幸せを作る上で大切だということ学んだ。人をつなげるためにも、みんなや自分自身がワクワクする企画やできごとが必要であると感じた。よりよい地域にするためには、何をやるのかということよりも、みんなで集まって何かをするような場であることが大切であり、社会教育士としてそのような場を作っていく必要がある。学校と地域をつなげるためにも、地域とコミュニケーションを積極的に行うことや、自分が住んでいる地域でも積極的に顔を出すなどしていきたい。



國定 佑基(足利市立富田中学校 教諭)

「地域と学校の架橋としての役割を担う」
複雑化・肥大化・多様化する学校課題の解決や、未来の社会が求める力を育むためには、学校内部の資源のみで対応策を模索するのではなく、学校外部の資源をどのように発掘し、活用していくかを検討し、改善策を見出すことが重要である。社会教育主事講習で得た見識を大いに役立てたい。
「社会教育の視点を取り入れた教育学研究を実践していく」
理論と実践を往還し体系化させることで、足利市や栃木県の教育に貢献したい。



衆谷 泰司(県立佐野高等学校附属中学校 教諭)

社会教育士の資格を持っている教員は、地域連携教員になることが多いと聞きました。そのような立場をいただいた際には、勤務校を地域に開かれた学校にするため、また、学校を核とした地域づくりに寄与できるよう、地域、保護者の方々との「つながり」をお互いの無理のない範囲で作っていききたいと思えます。
また、社会教育士は社会教育施設で勤務する機会もあると聞きました。子どもたちの幅広い学びを保障するためだけでなく、大人にとっても時代に合わせた講座やリカレント教育の充実に力を尽くしたいと思えます。



穴戸 太樹(県立佐野高等学校附属中学校 教諭)

授業中での話し合い活動で、今回学んだファシリテーションスキルを活用したり、「つながり」を意識した学校行事を提案したりしていきたいです。夏休みが終わった直後に行われる学校行事での生徒同士のつながりづくりや、授業内の話し合い活動で意見を出しやすい雰囲気を作れるような取組をしていきたいです。
学校現場以外の活動にも意識的に参加できればと思っています。地域の体育祭に娘や息子と参加してみようとも思っています。また、今回の講習でできた「つながり」を切らさない取組の提案ができれば、社会教育主事有資格者として初心を忘れないとも思っています。



小板橋 愛奈(県立足利中央特別支援学校 教諭)

・ファシリテーション、プレゼンテーション、コーディネートについて学ぶ研修に参加し、それぞれの力を高めたい。
・障害のある児童生徒の地域活動への参加について考えていきたい。
・現在の勤務校のボランティアさんとコミュニケーションを取り、地域の情報や人材を探そう。また、それを学習活動に活かしていけるようにする。
・地域に眠っている資源や人材をいかに発掘できるかが重要である。地域に出て、地域を知ることから始めたい。